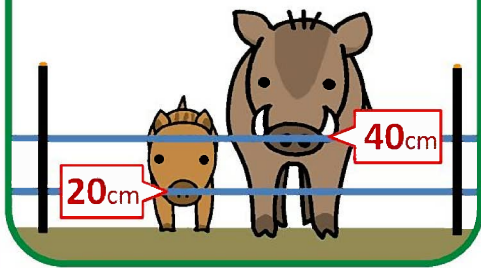
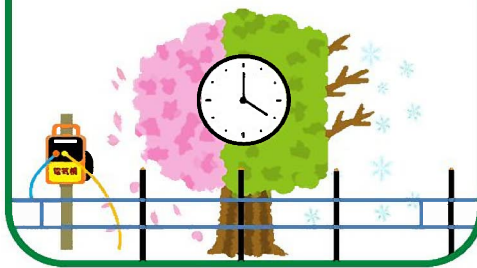


守れる電気柵 8ヶ条

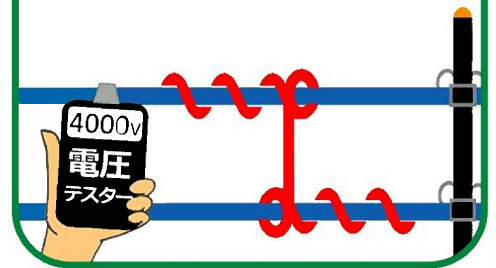
① 電線は地面から20cm,40cm



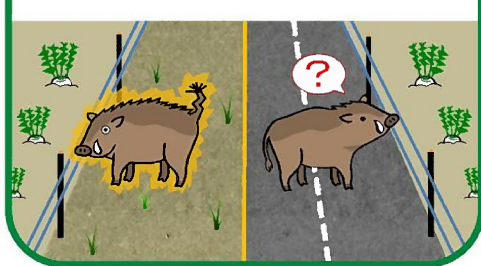
② 24時間、365日通電が鉄則



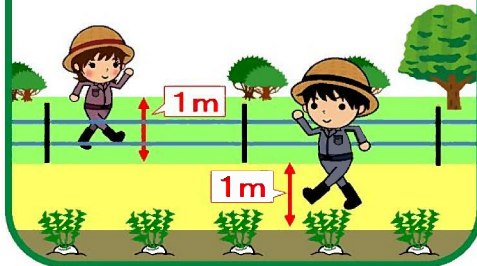
③ 設置後の管理をしっかりする



④ 柵の周囲には土が必須



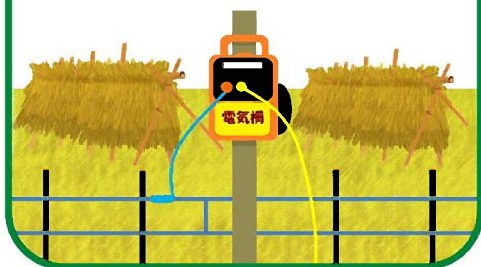
⑤ 柵の前後1mは人が歩けるように



⑥ 柵の近くに隠れ場所を作らない



⑦ 一番大事な時期は収穫の後



⑧ 9月以降の草払いは柵の周囲だけ



正しい使い方を
知ること
あなたの農地が
守られます

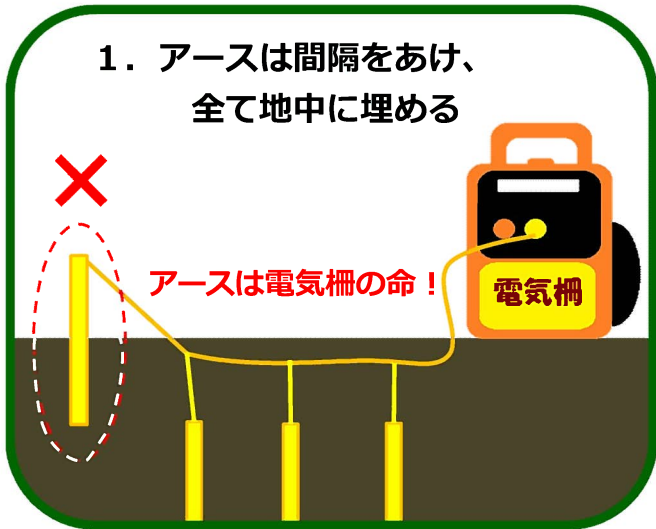
- ① **イノシシが感電するのは鼻だけ。** 体は剛毛に覆われているので電気が触れても気づきません。線は地面のどこから測っても20cm、40cmの高さになるように設置します。
- ② **イノシシは夜行性ではありません。** 24時間365日活動しています。一度でも電気の通っていない電気柵に出会ったイノシシは、電気柵を「怖くないもの」と学習します。
- ③ **電柵に必要な電圧は最低4000V。** 電圧が数値で表示されるテスターがオススメです。50mから100m間隔で上下を結束すると、もし断線したとしても断線区間を最少に抑えられます。
- ④ 電気柵の電気は、電線に当たったイノシシの鼻から足に向かって流れます。**電気を通しにくいコンクリート等にイノシシの足が接していると、電気柵は効果を発揮できません。**
- ⑤ 柵の周りに人がゆったりと歩けるスペースがあると、イノシシが警戒して近寄りにくくなります。**柵から作物を離して植えることで、「ここへ来ても何も食べられない」とイノシシに学習させます。**
- ⑥ 農地の周りに草むらや藪はありませんか？イノシシは安全に隠られる場所を好みます。昼は農地付近の草むらに隠れて生活し、柵に隙が出来た瞬間を待って草むら伝いに農地に侵入します。
- ⑦ **稲刈り後の田に生えた二番穂や、収穫後の畑に残った野菜くずはイノシシにとって貴重な栄養源。** 二番穂は反収60kgを越すこともあり、収穫後すぐに電気柵を外すことは大量の餌を与えることと同じ。栄養を蓄え冬を越したイノシシは翌年、数を増やして再び農地に餌を食べに現れます。**イノシシから農地を守るためには収穫後の農地にイノシシを入れないことが特に重要になります。**
- ⑧ **9月以降に法面などの草刈りをすると、普段は春に生える青草が、生えるはずのない冬に茂ります。** この青草はイノシシの大好物。食べ物がなくなってもイノシシは青草を食べて冬を越します。**イノシシの被害を減らす近道は、農地や集落からイノシシの餌になるものを無くすことです。**

電気柵設置後のチェックポイント

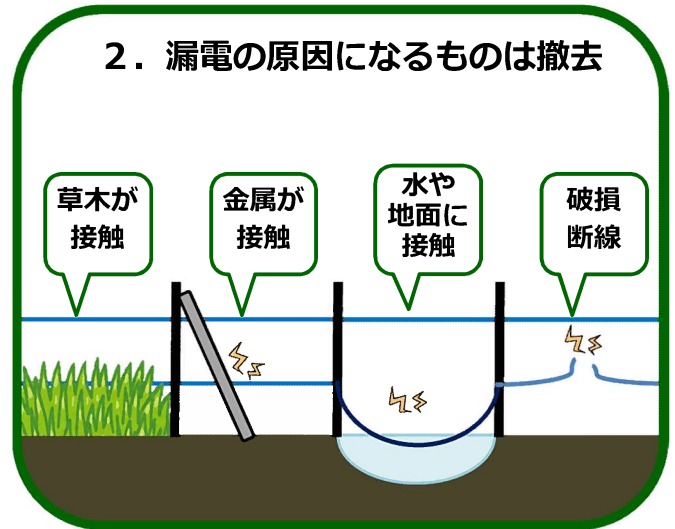
- 1. アースを正しく設置している
- 2. 漏電対策をしている
- 3. 線を張りすぎている
- 4. 斜面に設置していない
- 5. 電柵を張った場所を整地してある
- 6. 24時間通電にしてある

☆ チェックのつかなかった番号は、下の絵を見て対応を確認してください ☆

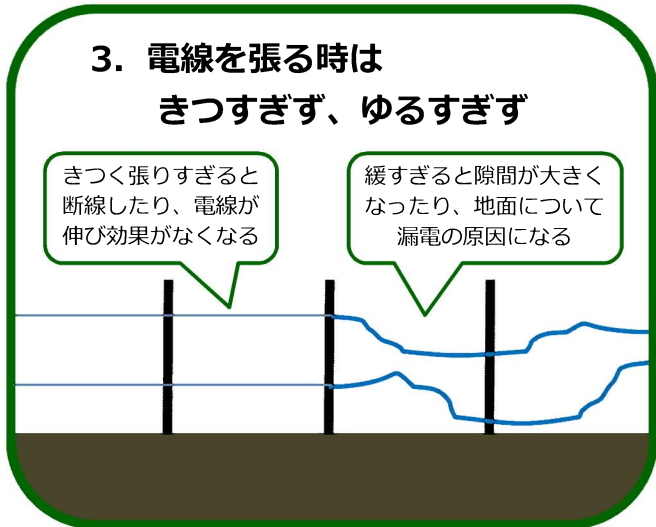
1. アースは間隔をあけ、 全て地中に埋める



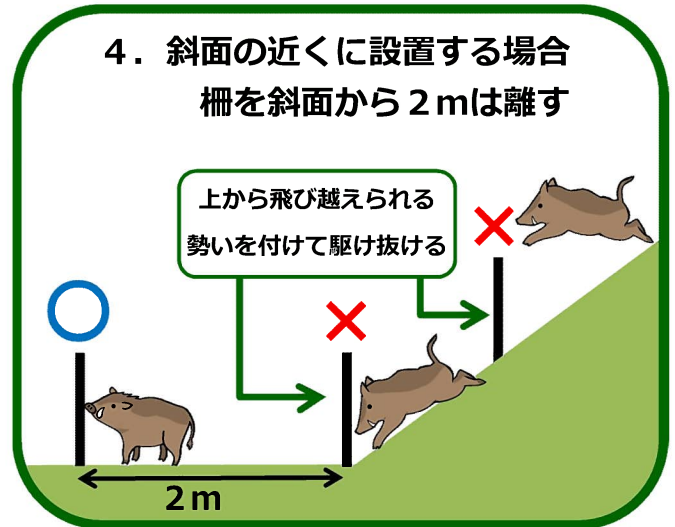
2. 漏電の原因になるものは撤去



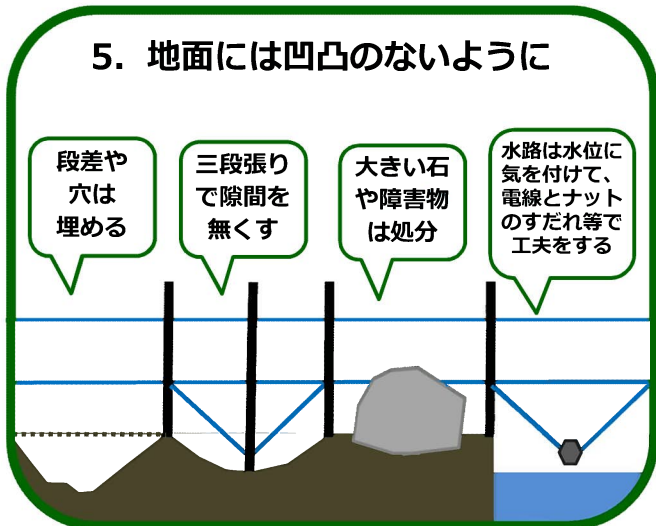
3. 電線を張る時は きつすぎず、ゆるすぎず



4. 斜面の近くに設置する場合 柵を斜面から2mは離す



5. 地面には凹凸のないように



6. イノシシは24時間 365日活動しています

